平成30年度 町政懇談会 意見内容

【ご意見者 1】

Q: 資源ごみの回収籠 (コンテナ) をごみ集積所に持っていくのが困難になってきているので、業者に委託できないか?

A:3年前に同様の要望があり。当時の経費で680万円くらいの費用がかかるので難しいです。

区長会での区長情報交換会などに提案していただきたいと思います。 別で、65歳以上の1人暮らし家庭に業者が訪問しての戸別回収を検討しています。

Q:65歳以上の1人暮らしに限定せず現状をみて対応してほしい。

A: それぞれの現状においては、現状ごとに対応を検討していきたいと思います。

【ご意見者 2】

Q:小中学校適正配置等調査検討委員会の答申書は公表されているのか?

A:町公式ホームページにて公表しています。

Q: 答申の中には、小中一貫校の9年間体制は含まれているのか? 6・3制なのか4・3・2制なのか

A: 答申内容に, 体制については盛り込まれておりませんので, 今後教育委員会の中で検討していきます。

Q:今後のながれ、議会への報告予定は?

A:保護者・生徒・学校職員にアンケートを実施し、教育委員会で基本方針を 策定し、その後パブリックコメントを経て議会に報告します。 策定していく間には、いろいろな方面と話し合い検討をしていきます。

【ご意見者 3】

Q:基盤整備事業の必要性について

A: 現状が、小さい・形が悪い・農道が狭く農機が入れない「ほ場」を、作業 効率の良い大きさ・形に整備をします。作業効率が良くなれば農家の経費 もかからなくなり、高齢者農家も整備をしておけば、担い手への依頼も今 後しやすくなります。

Q:新鮮野菜の直売会を今後、大きくしていくのか?

A:参加したい農家が増え、町へ登録していただければ、拡大していく方向に なります。

【意見】《平成29年度決算及び町の財政状況について》

資料の中での「決算を家計に例えてみた場合」が大変分かりやすい。

歳入面で給与(町税)・パート収入(負担金・使用料・手数料)が合わせて30%弱の低所得者であれば、親からの援助(国庫支出金・地方交付税・地方譲与税)54%をいただくのは当然のこと。

歳出面で社会保障費関連の民生費が一番大きく36%を占めているのは当 然のこと。

【ご意見者 4】

Q: 当初予算編成方針は公表されますか?

A: 今年度より公表いたします。

【ご意見者 5】

Q:健康増進施設整備・誘致事業において住民アンケート調査の期間と調査結果の公表は?

A:調査期間は平成31年度の1年間で調査し、結果は公表いたします。

【ご意見者 6】

Q:災害時の避難誘導について

A: 気象情報等を収集し、早めの避難準備・避難勧告・避難指示をしていきます。避難場所については、町の公共機関などを指定しており、それぞれ災害によって避難場所が異なりますのでハザードマップなどで確認をしていただき、災害時には早めに避難するようお願いいたします。

Q:備蓄品の数と期限切れの取扱いについて

A:罹災者12,000人を想定し、3日分の備蓄品を押付地区水防センターと生涯学習センターに分けて保管をしています。期限切れ間近の備蓄品は、飲用水については町の行事などに使用したり、今年は来庁者の方々にも使用していただきました。アルファー米については各地区の防災訓練時に使用しています。

今後、期限切れ間近の備蓄品については広報などでの周知を検討します。

Q:防災無線が聞こえにくいときがある。

A:ゆっくり、はっきりと話すように指導します。放送後のテレフォンサービス (無線内容)の利用もお願いします。

Q:シルバー人材センターが法人化になったときのメリット

A:会員数などの支給要件クリアの条件がありますが、町の補助金と概ね同等額が国からも補助金として直接人材センターへ支給されることもあり、組織体制の強化や就業機会の拡大など活動の活性化が図れます。

【ご意見者 7】

Q:魅力ある町づくりについて

A:桜、利根川を利用して魅力度をアピールしていきます。

【意見】《町政懇談会について》

町の行政幹部が総勢集まっての住民説明会は大変良いことなので、引き続き開催をしてほしい。ただ、住民の参加が少ないので周知を工夫(広報車等) して参加人数を増やしてほしい。

《事業内容について》

各々の事業を, 130名程度の職員で広範囲・多岐にわたって粛々と進めていただいて大変なことですが, 引き続き取り組んでいただきたい。 交通の便を充実してほしい。

【ご意見者 8】

Q: 桜堤の土手に菜の花を植えてはどうか。

A: 一級河川の堤防なので、菜の花を植えると堤防としての強度が弱くなるということで管轄している国の許可が難しいです。

【ご意見者 9】

Q:町政懇談会の周知について

A:来年は、周知方法を検討して参加者を増やしていきます。